

日本の日当制度はもう古い？ やればやるほど稼げる米国の職人たち

今回は、国内と世界の市場に触れながら、認定資格取得のメリットについて深掘りしてきました。今号からは、日本と世界各地のおおまかな賃金を比べながら、我々施工業者、職人がどういう姿勢であるべきかを考えたいと思います。第1弾はアメリカ市場についてです。

日当9万円以上も狙えるアメリカ市場

国内では、平均的な職人の日当は1万5千～3万円くらいだと言われています。もちろん、特殊性、危険度などによりプラスαがありますし、都市部か地方かによっても単価が変わってきます。しかし、おおむねこの範囲が相場になってくるでしょう。

では、アメリカだとどうでしょうか？私が知る限り、基本的にこの国の職人は日当での仕事を受けません。案件の大きさや規模によって、賃金が定められるのが一般的です。例えば、トラックやバスなど商用のカーラッピングの施工賃金は、3.5～7米ドル/1スクウェアフィート+交通費、諸経費となります(\$1=¥108、1スクウェアフィート=0.093㎡とする)。1㎡あたり約4,000～8,000円くらい稼げる計算です。

仮に、施工前のクリーニング、仕上げ作業を含めて1日に約5～20㎡をラッピングしたとしましょう。すると、何日かかり、1日当たりの稼ぎはどれくらいになるのでしょうか。このように、施工に要した日数に関わらず施工規模によって単価が決まるため、極端に言えば早く仕上げれば仕上げるほど、1日当たりの儲けを大きくできるのが、日本との大きな違いです。

では、車体装飾と少し離れて、看板面など平面施工の場合はどうでしょうか？これも仮の話ですが、約1～4米ドル/1スクウェアフィートの単価で、優れた職人が1日80～200㎡貼った



全米を賑わすNFLの優勝決定戦・スーパーボウルの時期になると、開催地は一色に染まる

とします。日本円にすると1㎡あたり約1,160～4,600円の賃金となるので、最低でも9万円以上の稼ぎになります。このほか、平らな壁面でなかったり、障害物のある現場での施工は、さらに賃金が上乘せされます。※アメリカの単価は地域、元請け、仕事内容により異なります。

一大行事は日本の職人も稼げるチャンス

そんなアメリカでも、日当での仕事が発生する場合があります。イベントなど、期間限定でメディアを掲出するケースです。特に世界規模のイベントでは、とある都市の空港、路線バス、ビル壁面など街中全てを商業ラッピングで埋め尽くすケースもあります。

その規模は、出力フィルムでなんと約2万㎡。この物量を約3週間かけてラッピングするため、全米はもちろん、欧州ほか世界各国から職人が集められる

のです。1日で200人以上のインストーラーがこのプロジェクトに参加しているというから驚かされますね。アメリカでは珍しく、多めに残業をしないと納期に間に合わない仕事で、9時～20時頃まで拘束されたのだと聞いています。まちの全てがイベント一色染められた景観には圧倒されます。

この仕事で、末端の職人に支払われた日当は、およそ6万円。ただし、現場までの航空チケットと宿代を含んだ金額となります。そのため、遠方から来た人にとってはかえって損になってしまう場合も。

なかにはホテル代を浮かすために、元請け企業の家にホームステイしたり、仲間内で協力し合って一時的に家を借り、経費を削減させて利益につなげようと努力する職人たちもいるそうです。

ちなみに、このような大きなイベントのケースでは、日本人も助っ人として呼

ばれます。実は私も、参加こそできませんでしたが、かつて招待された経験がありました。しかし、もちろん誰もが参加できるわけではありません。主な条件は、以下の通りです。

- ① 一流職人のコミュニティ(団体)に参加しているか
- ② フィルム貼り付けに関する資格を取得しているか
- ③ 1日8時間で100㎡以上を1人で貼る事ができるか
- ④ 高所作業車を操作できるか
- ⑤ 納税義務を果たしているか
- ⑥ 永住権又は適正なVISAを取得しているか
- ⑦ 工事、個人等の保険をかけてあるか

さて、読者の皆さんは、この条件を全てクリアし、アメリカのイベント施工

に参加できるでしょうか？チェックしてみると、今後の仕事の可能性を広げるひとつの目安になるかもしれません。

話を日本市場に戻します。20年前と比べると、国内の賃金も少しずつ上昇してきました。しかし、技量にかかわらずベテランも初心者も一律の日当が支払われる風習は、改善すべきと私は考えています。より多くの仕事を素早く丁寧にできる職人が、より多くのお金を稼げた方が、モチベーションの向上にもつながるでしょう。全てを模倣すればいいわけではありませんが、アメリカのやり方を参考にすべき部分はあるのかもしれない。

今回は、世界の賃金事情に触れる第2弾。アメリカと比べて、アジアをはじめ、ヨーロッパ、ロシアの市場はどうなっているのか。業務体系の部分から探っていきます。



苅谷伊

(かりや ただし)



1969年2月3日生まれ
89年大学中退後、父の看板業を手伝いはじめる。07年よりカーラッピング専門のPPF事業部を立ち上げる。ラッピング分野初の国内団体となる日本カーラッピング協会の設立にも奔走し、17年1月に初代会長に就任する。主にレース車両や自動車メーカーのデモカーのラッピングを手掛ける。

主なラッピングコンテスト

2017年(タイ・バンコク)	FESPA ASIA WRAP MASTERS CUP	3位
2017年(アメリカ・ラスベガス)	SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE	2位
2018年(ドイツ・ベルリン)	FESPA WRLD WRAP MASTERS	4位
2018年(アメリカ・ロングビーチ)	WRAP OLYMPICS	優勝
2018年(アメリカ・ラスベガス)	SEMA SHOW HEXIS WRAPPING BATTLE	3位
2019年(ドイツ・ミュンヘン)	World Wrap Masters Europe	8位
2019年(アメリカ・ロングビーチ)	WRAPS OLYMPICS	準優勝

SNS

フェイスブック (苅谷伊)
Instagram @designlab.inc.wrap_japan
Twitter @tadashikariya

株式会社デザインラボ PPF事業部

〒501-6023
岐阜県各務原市川島小網町 2150-24
TEL/FAX : 0586-89-2332

〒243-0021
神奈川県厚木市岡田 3122 apr サービスセンター内
TEL : 046-258-6531 FAX : 046-228-7636